

科目名	臨床実習 I Clinical Education I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	45 1	開講区分	後期
【授業の学習内容】							
臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。							
① 臨床実習 I は外来見学実習とし、病院、介護福祉施設、スポーツ施設にて「はり師、きゅう師」の関わりと業務について学習する。							
実務実績 社会特別養護老人ホーム青都荘にて診察から治療までの業務を行う							
資 格 はり師・きゅう師							
実務実績 中央市民病院 緩和ケア内科にて業務を行う							
資 格 はり師・きゅう師							
実務実績 高等学校ゴルフ部、社会人アメリカンフットボール、女子ラグビーなどでのトレーナー活動及び国民体育大会帯同							
資 格 はり師・きゅう師、JRFUセーフティアシスタント							
【到達目標】							
① 臨床の現場において「はり師、きゅう師」ができることを理解する。							
② 他職種とのかわり方、働きを理解する。							
③ 個々の現場において鍼灸施術の適応を見極めることができる。							

授業計画・内容	
1回目	臨床実習 I に関するガイダンス
2回目	デイサービス実習先事前訪問（実習オリエンテーション）を行う 実習日誌・実習に関する諸注意について理解する
3回目	デイサービス実習先事前訪問（実習オリエンテーション）を行う デイサービス利用者とのコミュニケーション体験を行う
4回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて利用者、職員との関係性構築を行う
5回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて利用者、職員との関係性構築を行う
6回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて利用者、職員との関係性構築を行う 利用者の心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行うための対象を選定を行う
7回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて利用者、職員との関係性構築を行う 利用者の心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行うための対象を選定を行う
8回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて福祉の専門職の役割について理解する
9回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて福祉の専門職の役割について理解する
10回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて福祉の専門職の役割について理解する 対象利用者の心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行う
11回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて福祉の専門職の役割について理解する 対象利用者の心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行う
12回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行う 対象者理解を更に深め、はり師きゅう師として関われることについて考察する
13回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行う 対象者理解を更に深め、はり師きゅう師として介護予防や保健を目的に関われることについて考察する
14回目	デイサービス実習 身体介助を除く業務体験を通じて心理的や社会的状況、身体面の医学的考察を行う 対象者理解を更に深め、はり師きゅう師として介護予防や保健を目的に関われることについて考察する
15回目	病院見学実習先事前訪問（実習オリエンテーション）を行う 実習日誌・実習に関する諸注意について理解する
準備学習 時間外学習	臨床実習では医療従事者「はり師・きゅう師」としての自覚や実践的能力を養うことを目的としています。 そのためには様々対象者とのコミュニケーション力や情報収集力(観察力)が大切となるためこの2点について 全て医学的な思考がベースとなるため解剖学・生理学・運動学については復習が必要です。 時間外には実習で得た情報を整理し、まとめておく必要があります。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。 ※臨床実習前試験を含む。
受講生への メッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	

科目名	臨床実習 I Clinical Education I	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	45 1	開講区分	後期
【授業の学習内容】 臨床実習では「はり師・きゅう師」としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する実践的能力を養い、患者への適切な対応や「はり師・きゅう師」としての自覚を養う科目である。 ① 臨床実習 I は外来見学実習とし、病院、介護福祉施設、スポーツ施設にて「はり師、きゅう師」の関わりと業務について学習する。 実務実績 社会特別養護老人ホーム青都荘にて診察から治療までの業務を行う 資格 はり師・きゅう師 実務実績 中央市民病院 緩和ケア内科にて業務を行う 資格 はり師・きゅう師 実務実績 高等学校ゴルフ部、社会人アメリカンフットボール、女子ラグビーなどでのトレーナー活動及び国民体育大会帯同 資格 はり師・きゅう師、JRFUセーフティーアシスタント							
【到達目標】 ① 臨床の現場において「はり師、きゅう師」ができることを理解する。 ② 他職種とのかわり方、働きを理解する。 ③ 個々の現場において鍼灸施術の適応を見極めることができる。							

授業計画・内容	
16回目	病院実習 理学療法士が行う業務見学より医療現場で必要となる共通言語について理解する。
17回目	病院実習 理学療法士が行う業務の目的、方法について理解し、医療現場で求められる診察、施術について理解する。
18回目	病院実習 理学療法士が行う業務の目的、方法について理解し、医療現場で求められる診察、施術について理解する。
19回目	病院実習 病院施設が付帯する鍼灸治療院および関連施設との連携について実習を行う
20回目	病院実習 病院施設が付帯する鍼灸治療院および関連施設との連携について実習を行う
21回目	スポーツ施設実習 スポーツ実習事前訪問（実習オリエンテーション）を行う スポーツ選手に関わるために必要な知識、技術についての理解を深めるとともに選手ならびにトレーナーとの関係性について考察する
22回目	スポーツ施設実習 スポーツ現場でのトレーナー業務を理解し、はり師きゅう師として関われることについて考察する
23回目	スポーツ施設実習 スポーツ現場でのトレーナー業務を理解し、はり師きゅう師として関われることについて考察する
準備学習 時間外学習	臨床実習では医療従事者「はり師・きゅう師」としての自覚や実践的能力を養うことを目的としています。そのためには様々な対象者とのコミュニケーション力や情報収集力(観察力)が大切となるためこの2点について全て医学的な思考がベースとなるため解剖学・生理学・運動学については復習が必要です。時間外には実習で得た情報を整理し、まとめておく必要があります。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。 ※臨床実習前試験を含む。
受講生へのメッセージ	
【使用教科書・教材・参考書】	